

広報ちゅうざん

1月号 平成23年1月1日発行



もくじ

リハビリテーション治療と癒し

二ページ

新年を迎えての挨拶

三ページ

栄養サポート

四ページ

作業療法とは

五ページ

平成二二年一二月入退院状況

六ページ

リハビリテーション治療と癒し

理事長・院長 今村 義典

年の初めにあたって、リハビリ医療の在り方について考えてみました。医療が、病気やケガを治療するだけに止まることなく、治療後の人生に関わることが増えてきているように感じます。

私達は生物学的な命を治療すると同時に人を治療していることを常に考える必要があります。

医療の基本は、医師を中心に様々な専門職の知識と技能によって行われる「治療」であることは周知のとおりであります。

一方、病人や障害を持った人の「癒し」やＱＯＬ（人生の質）のサポートには、専門の医学知識の上に、精神的、社会的、教育的、さらに哲学・宗教的な要因が意識的・無意識的に働く知識が必要になってきます。

特に最近では、患者さんやその家族の手記やテレビのドキュメンタリー等で、生命の予後の不安に直面している癌の患者さんの「治療と癒し」について、「死」や「いかに生きるか」等についての基本的課題を一般の方も考える機会が多くなっています。

癌の患者さんに、手術や化学療法、放射線治療等の現代医学の最

先端の治療を行ない、最善は尽くしたので、これで治療は終了ですと言われて満足し、治ったと安心される患者さんはそんなに多くないと思います。体力の回復のこと、今後の生活の事、または進行や転位した癌の予後そして緩和ケアの方法などの日常生活や社会復帰への方向を示し相談に載ってくれるような医療者に救われたと耳にすることが多くなっています。

同様に、突然の障害により人生を失うような衝撃に見舞われたりハビリ治療の患者さんにも似た面があります。病気やケガは治りましたが、後遺症は如何しようもありませんと宣告されてショックを受けますが、しかし、障害は不便でも「いかに生きるか」の可能性と一緒に取り組めるリハビリ医療者が初めて患者を救うことが出来るように感じています。

医療者は、病院という限られた社会の一部分だけで病気や人生を治すことは出来ません。社会・地域での生活に関わることで治し、癒すことが出来ると考えます。患者さんを「治す」厳しさと「癒す」優しさの心を持たなければ、どんなように優れた医療知識や技術を習得しても、人を治療するリハビリテーションを理解することは出来ないうでしょう。

新年を迎えて

看護部長 米澤真佐江

新年あけましておめでとーございます。謹んで新年の「ご挨拶」を申し上げます。

医療の進歩と共に患者さんの重症化・高齢化・平均在院日数の短縮化に伴い回復期リハ病棟に於いては看護必要度の高い患者さんの入院が増加しています。入院後は早い時期から在宅生活を目指した医療計画が主治医・患者さんを中心にチームで関わって立案されているのが回復期リハビリ病棟です。その中でも看護は二十四時間継続したケアを提供する為に患者さんの二ドに沿った質の高い医療・介護。そして安心して安全なケアを目指しております。

又、日々「いのち」「くらし」を守る責任ある仕事に関わっており日頃から職場で働く看護職を支える揺れない柱と翼になりたいと考えています。患者さんにとって「この地域で生活してよかった」、「この病院でリハビリしてよかった」と感じられるようなケアを今年も目指したいと考えます。

そして質の向上に向け全国リハビリ病棟連絡協議会主催の回復期リハビリ認定ナースも県内第一号が当院から誕生しておりますし今後も継続して研修会などに参加しスキルアップを図りケアに反映していきたいと思えます。

昨年はぐしかわ看護専門学校第一期生の老年看護実習を当院で受け入れ職員も温かい眼差しで看護学生を育成すると共に責任ある人材を育てていきたいというキツカケになったのではないかと感じました。良い看護を提供する為にそれぞれの立場で考えた一年だったと思えます。働きやすく誇りの持てる職場環境をつくるためにもそれぞれの知恵と技術を工夫しあい看護の仕事に誇りを見出したいものです。

日常生活の援助を提供しお互い刺激しあいながら学び、患者さんに安心して幸せな日々が送れるように努力していきたいと思えます。

今年も患者さんに安全で安心した看護が提供でき看護師として誇りと責任の持てる話しやすい環境づくりに邁進したいと考えます。

食事をしっかり噛んで味わいましょう。

管理栄養士 高橋 亜矢

みなさん「早食い」ではありませんか？食事を食べ終わるまでに10分しかかからないなんてことはありませんか？早食いは、肥満・虫歯・歯周病などの原因になります。早食いを治すだけで、糖尿病の方の血糖値が良くなったというデータもあるぐらい、早食いは油断にならない生活習慣病の原因の一つです。ぜひ、肥満や糖尿病の方には早食いを治して頂きたいと思います。

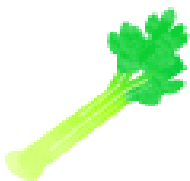
では、早食いを治すにはどうすれば良いでしょうか？よく言われている「一口20回噛みましょう」も柔らかい食事が多い方では苦痛に感じるかもしれません。例えば、ご飯をいつもより硬めに炊く、玄米や雑穀ご飯に変える、おかずに繊維が多いセロリやごぼうなどの硬いものを取り入れるのがオススメです。また早食いの方で、ご飯を口に入れたら味噌汁やお茶で流し込みながら食べる方がいます。飲み物がないと食事が食べべ

れないという方です。元来、水分の少ない食品でもよく噛んでいるとだ液が出てきて食べ物をまとめ、うまく飲み込めるようになります。また、食品から味の成分が唾液に溶けて混ざることとで薄味でもおいしく味わうことが出来るのです。よく噛むことで米の甘味がいつも以上に感じられます。

仕事や家事が忙しくてゆっくり食べてられないよ！という方は、夕食だけでも実行してみてください。満腹感が変わり夜食が止められるかもしれませんよ。

～よく噛むことのメリット～

- 肥満の改善
- 虫歯・歯周病の予防
- 血糖値の改善
- 素材の味がわかる
- 認知症の予防になる
- （子供では）歯並びがよくなる



作業療法について

作業療法士 前川 健

当院ではリハビリテーション専門職種として多くのスタッフが働いています。今回はその中でも作業療法及び作業療法士に焦点をあてて紹介していきます。

①作業療法とは？

当院におけるリハビリテーションは大別して理学療法、作業療法、言語聴覚療法の三つに分けられます。作業療法とはその中でも、主として手や腕の運動機能、日常生活動作、人間の認知力や判断力といった高次脳機能におけるリハビリを行う領域であるとされています。法律において作業療法とは、身体や精神の障害に対し、応用的動作能力又は社会適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行わせることと定義されています。

②そもそも作業療法の「作業」ってなに？

ここで言われる作業とは人間が生きて行うすべての行為、活動を指しています。すなわち食事やトイレといった生活動作だけでなく、職業上必要とされるパソコン操作、車の運転、スポーツ、趣味活動といったすべての活動がその中に含まれます。また何かを楽しむといった心の活動もその中のひとつであるとされています。

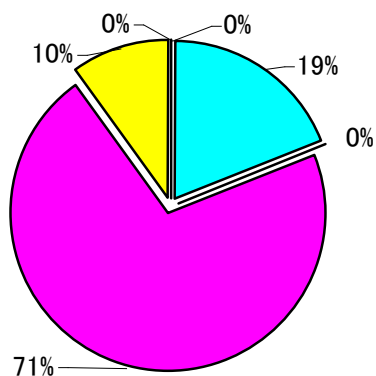
③作業療法でどんなことするの？

患者さんと治療者との間に何か一つ挟んで治療することが多いのも作業療法の特徴のひとつです。例えばそれは積み木や輪っかといった手指の運動に利用できるものだけでなく、食事でする箸や茶碗、仕事でするパソコン、家庭でする包丁やまな板だったりします。この様に作業療法士は直接患者さんに触れてリハビリするだけでなく、様々な道具を効果的に用いることで心身機能の向上を図り、退院に向けた援助を行っています。

平成22年11月 入退院状況

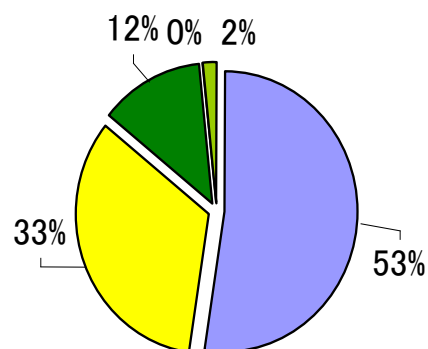
入院患者数80名

- 公立病院等(南部)
- 公立病院等(中部)
- 公立病院等(北部)
- 民間病院等
- その他



退院患者数76名

- 自宅
- 転院(急性期・療養型)
- 施設入所
- ショートステイ
- その他



ちゅうざん病院 〒904-2151 沖縄市松本6丁目2番地1号
 電話:982-1346 FAX:982-1347 「広報ちゅうざん」

編集: 神山 千春